とゝぎす流るゝ渡すべたやうかゝり夜中に来四志
らぬ大河を渡りて年治ふゝ是迄有之候て急ぐ
べきよあらば明日帰渡し給るべしと申されて盛安
仰りゝは氏河水夜中に落候へ明日は後陳の大勢渡
さんと氏川岸ふ至るまで渡り共申之ふあるべず馬かく
渡さんふ何ゝは渡り海ざらんと服部は松灯を高く附て
ゝ先ふ乗入るべ十六騎の者共我劣らじと後因八郎
陳を用ふ拭く流川流るゝ渡りゝ後因九郎陳すり
大同遠ゝふ即流を曲者ゝ作なり
目付を出し見せるふ陳ゝの手賊大勢川福江出て見
物し渡りゝ福く帰るゝ流れて孔をゝ諸人目ゝ眼
を見合せ評定すゝ申ぬし育月ゝ雲かゝむきしゝ
で川面をゝれ岡ふ多川て瀬枕を市みかぎり流ゝ音
ハ流れ如くゝふ馬の足の立所ハあるませ浦き所をよ
ゝ七馬ふ乗ゝ拭ゝ一文字なる渡し陸ふ上りしゝで若
武者二騎来りて只今河を渡されハ何人ゝ名
を兼ゝとゝ仰ゝ候ゝ申れで盛安馬ゝ乗で下り
是を出羽れ出仙北の住人戸沢盛安ゝ申者ゝ
ふ遠国ゝ住ゝゝ只今年着仕の宜敷ふ被ゝふ頂り
たゝゝ申れで彼れ武者立帰りて秀吉公ふ申上ゝ